

THEリアルタイム

vol.42

サポートセンター連からお届けする地域生活支援情報誌



特集:令和3年度の新入・サポートセンター連を一挙紹介!

INDEX

- P1 表紙/ごあいさつ
- P2~P3 今号の特集
- P4 日中活動支援事業紹介
- P5 相談支援事業紹介
- P6 生活支援事業紹介
職員リレーエッセイ
- P7 グループホーム紹介
後見的支援事業紹介
- P8 地域交流事業から
情報/編集後記

センター長 白鳥基裕

コロナ禍と新しい生活様式が
気づかせてくれた大切なもの
一昨年から続く新型コロナウイルス感染症は未だに予断を許さない状況にあります。特に感染力の強い変異株も国内で多発しているため、施設内における予防対策をさらに強化し、緊張感を持ちながら事業継続を図っています。
さて、私たちの仕事でもオンラインでの会議や情報交換が増えました。「新しい生活様式」として、コロナ禍の収束後も取り入れていきたい画期的な方法だと思えますが、その限界も感じます。情報は交換できても、情緒や感情の交換は難しいのです。
現在、ワクチン接種が少しずつ広がっていますが、コロナ禍で再認識した「対面でのコミュニケーションの価値」を大切に、新鮮な気持ちで再スタートしていきたいと思う今日このごろです。

障害のある方が輝ける、 楽しい、うれしいと思える支援を

本年4月から、サポートセンター連に新しく「副所長」という役職が誕生し、昨年度まで支援課長だった小原敏裕が就任しました。就任にあたっての抱負、支援課長という従来の立場との違い、そしてサポートセンター連がこれからどう変わっていくか。一問一答形式でお届けします。(聞き手・田村 真美)

—まず、小原さんの経歴について教えてください。

大学を卒業後、営業職を3年。その後、自分の大きな体を活かした仕事があったことや介護保険が始まったタイミングと重なったこともあり、高齢者介護の仕事に興味を持ちました。しかし、障害福祉に携わっていた知人の勧めもあり障害分野へ。縁があつて磯子区にある訪問の家の生活介護事業所「集」に見学に行き、当時の施設長よりお声かけをいただいて入職し、現在に至っています。7年目から主任、11年目に課長職になりました。

連には7年前に課長職で異動し、今年度から副所長職となり、勤続21年目を迎えました。

—副所長任命を聞いたとき、課長との違いについてどう思いましたか？

担う業務の内容と責任が増すことだけでなく、もっと自分から発信し、自分の業務に対する想いや考えを各職員に知ってもらふ必要があると思いました。



—副所長に求められる役割とはどういった事でしょうか？

多くの役割がありますが、現場での業務を担っている各職員に業務の方針や目標を明確に伝えていくことが特に重要だと思っています。

また、現場で起きていることを自分の目で把握して具体的にアドバイスしたり、目標に向かっての軌道修正や状況に応じたさまざまな判断を的確にする必要があります。さらに、地域や関係機関の方々とのやり取りなども重要な役割であると思っています。



—どういう事業所にしていきたいと思えますか？

利用者さんの支援にあたって、今まで以上にさまざまなことで地域の方とつながりを持てる事業所にしていきたい。また、地域の方との関わりを通して、障害のある方が輝ける、楽しい、うれしいと思える支援をしていきたい。

職員に対しては、働きやすい職場づくりとともに、各職員が自分の担っている仕事に誇りが持てるような職場にしていきたいと考えています。

—今後の意気込みをお願いします！

笑顔を絶やさない！ また、「できない理由を考えるのではなく、できるために何をするかを考える」という意識で取り組んでいきたいです。

—最後に地域に向けて一言を

さまざまな活動において、いつもご協力いただきありがとうございます。

障害のある利用者さんと地域の方々との「つながり」を大事にしていきたいと考えています。コロナ禍で難しい状況もありますが、活動を通してさらに繋がらせていただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

Toshihiro Ohara



小原
敏裕

昭和47年、兵庫県神戸市生まれ。大学卒業後、一般企業を経て平成12年に訪問の家・集に入職。同23年に課長昇格。同26年に地域活動ホーム連に異動し支援課長。本年4月から現職。

Fresh!

私たちもよろしくお願ひします!

～新入職員紹介～

令和2年度以降に入職した職員を紹介します。

①職種・担当業務/②入職年月日/③趣味・特技

Fresh!

Naoyuki Tsuji

辻直之



- ①日中活動/支援員
- ②令和2年6月1日
- ③探し中

未熟者ですが、どうぞよろしくお願ひいたします

この業界は、ここの職場が初めてです。不器用、口下手です。アピールしたいことという困りますが、仕事をしながら良い点を見つけていきたいです。見つかるように努めます。

Mari Kaneda

金田真理



- ①生活支援/支援員
- ②令和2年8月1日
- ③英会話・音楽鑑賞など

利用者さんの個性を理解し、心のふれあいを大事に

コロナ以前、3年連続でヨーロッパへ一人旅行にいきました。五感をフル活用して得た経験や現地の人とのふれあいは、私の財産になっています。

Akihiko Ueno

上野昭彦



- ①日中活動/支援員
- ②令和2年9月1日
- ③中国禅密気功

微力ながら、利用者さんの支援に全力で取り組みます

前職はIT企業で、初期のフリーダイヤルの0120などのシステムの構築/運用/管理を経験しました。今後は前職のノウハウ、考え方を活かしつつ活動していきたいと思ひます。

Hiroumi Arakawa

荒川廣海



- ①送迎運転手
- ②令和2年10月13日
- ③オートキャンプ・魚釣り

送迎で車に乗るので、交通安全に気をつけます

シーズンに一度はボートに乗って釣りに行っています。昔は仲間と行くことが多かったのですが、最近では一人が多いです。真鯛が釣れたときが一番うれしいです。

Kazuhiro Umeda

梅田和人



- ①グループホーム支援員
- ②令和3年1月1日
- ③サイクリング

一所懸命にがんばりますよろしくお願ひします

大学を卒業して就職した静岡県の会社の上司の影響でサイクリングが好きになりました。当時は浜松から浜名湖まで走ったものです。他にはTVゲームや食べ歩きも好きです。

Kimio Miyata

宮田公夫



- ①送迎運転手
- ②令和3年3月1日
- ③散歩、サックス演奏

老いたる馬は道を忘れず送迎ルートを覚えます

沖縄に住んでいる令和元年生まれの孫を抱っこできる日を楽しみにしています。ラジオ体操は近隣の元若者30~40人で行っています。サックスは10年ほど前に始めました。

Akari Takakura

高倉明梨



- ①日中活動/支援員
- ②令和3年4月1日
- ③読書・ピアノ

明るく笑顔で頑張りますよろしくお願ひします

趣味は読書です。いろいろなジャンルの本を読みますが、好きな作家は上橋奈穂子さん。最近ではドラマ化された精霊の守り人にはまっています。ピアノ/歴15年で、ジブリ曲が得意です。

Shingo Takahashi

高橋慎吾



- ①日中活動/支援員
- ②令和3年4月1日
- ③旅行・山登りなど

風になること、馬鹿になること、踏み出すことが目標

いつでも心に太陽を motto に日々面白おかしく生きているのですが、昨年ほとんど旅行に行けずじまいでした。今まで海外は30か国に行く機会がありました。

日中活動支援事業は、障害のある成人の方に平日昼間の働き場や過ごし場を提供する事業です。学校を卒業した方の進路としての利用や、長い間社会と関わらずに暮らしていた方が地域につながるきっかけになるための利用など、地域の方との関わりを大切にしながら得意なことや好きなことを活かした活動に取り組んでいます。

日中活動支援事業は5つの工房(グループ)に分かれて活動しています。各利用者の障害特性や本人のペース、得意なことなどを考慮して、どの工房をご利用いただくかを決めています。また医療的ケアが必要な利用者のために看護師も配置しています。

工房1は、車椅子利用の方が多くグループです。クッキー作りやビーズ・紙すきなどの製品づくりに取り組んでいます。昨年度からは期間限定クッキーの製造を始め、試行錯誤しながら作っています。銀座のファンケルでも取り扱っていただき、都心進出を果たしました。また、配信動画に合わせてダンスやストレッチで体を動かしたり、ゲームやカラオケなどの余暇にも力を入れています。



人気のクッキー、期間限定商品も販売中です!

工房2は、医療的ケアを必要とする方が多いグループです。コミュニケーションをとるのが難しい方が多いので、ボールプールのような感覚に訴えるプログラムを通して表情の変化を引き出すことで意思疎通を図っています。

ブレスレットやアロマキャンドルなどの自主製品の製作活動も行っています。



新商品のアロマキャンドルも発売予定です。乞うご期待!

工房3は、元気いっぱいな方が多い活気あるグループです。アルミ缶のリサイクル作業や缶バッジ製品の製造作業をメインに活動しています。近隣の方々や小学校、マンション等のご協力のもとアルミ缶の回収に直接伺わせていただくことで、リサイクル活動は地域の方々との関わる大切な場になっています。

仕事中心のグループですが、今年は状況をみながらグループで楽しむ余暇も行っています。



缶作業メンバーが増えて納品もスピードアップ。アルミ缶、絶賛募集中!

工房3Bは、10代から60代までの幅広い年齢の方が所属し、気持ちを支える支援をメインに行っているグループです。「みんなで仲良く楽しく!」……とはいわずに衝突することもあります。その都度話し合いや、やり取りを大切にしている工房でもあります。活動内容は羊毛フェルトやパソコンでの製品デザイン・ポップ作り、ステンシルバッグの作成など。「自分の力でがんばる」「今の自分にできることをやる」をモットーに日々活動しています。



一つ一つ、気持ちを込めて丁寧に作り上げています。

工房4は、自立度が高く手先が器用で、作業のほとんどを自分たちでできる方が多いグループです。主にパン製造とボールペンの組み立てなどに分かれて活動しています。パン販売は現在では他のグループの方も参加していますが、かつては工房4が一手に担っていました。ボールペン作業は企業からの受注で納品まで行っています。工賃支給日にお茶会を楽しむなど、仕事と余暇のバランスも考えています。



役割分担してパン製造。豊富なメニューでお待ちしております!

医務には、常勤1名、非常勤2名の看護職員がいます。工房2の利用者を中心に、体調管理やケガの処置などを行っています。グループホーム利用者の健康管理もホームスタッフと協力して行っています。

地域交流室の貸館利用者やボランティアさんなどの来館者に対しても必要に応じて対応しています。



こまめに声をかけ、表情の変化を確認しています。

相談支援事業は、障害のある方の悩みや困りごとをお聞きし、一緒に考えたり、知りたい情報をお伝えする事業です。「旭区基幹相談支援センター」は旭区の相談支援の中心となる一次相談機関として横浜市から委託を受け、以下の6つの取り組みを行っています。

あらゆる相談を受け止め、その人らしい生活の実現を一緒に目指す「総合的・専門的な相談支援」

障害による生活しにくさ、困難さを抱えている方のお話しを伺い、生きがいを持って生活していくための支援チームづくりや地域ネットワークづくりを通じて、解決に向けて考えていきます。

誰もが暮らしやすい旭区を目指し地域づくりに取り組む「地域の相談支援体制強化」

旭区には200以上の障害福祉事業所があります。これらの事業所が「誰もが安心して暮らせる旭区」という共通目的を持つために集まる「旭区地域自立支援協議会」の事務局を担っています。



障害児者に関わる支援者向けに、さまざまなテーマで年間を通して研修を企画・開催しています。

障害福祉サービスや制度の枠にとらわれない「地域の状況に応じた独自の取組」

福祉サービスでは対応しきれない問題を解決に導くには、地域の理解と協力が不可欠なので、一人でも多くの人に障害について正しく理解してもらうための「公開講座」を開いています。また、保護者が孤立しないための障害児の親の集いも行っています。



ダウン症児の親の会「ふくつこの会」。保護者が孤立しないために繋がりを大事にします。リモートにも対応しています。

入院生活を送っている方が退院・退所後に安心して暮らせる地域づくりを行う「地域移行・定着」

市内の障害者の入所施設26カ所のうち6施設が、入院設備のある精神科病院28カ所のうち6病院が集中する旭区は、退院・退所して地域で暮らしたいという方のニーズも多い土地柄です。保土ヶ谷・泉・瀬谷の3区と連携し、病院・入所施設職員に「地域で暮らす」イメージを伝える啓発活動を行っています。

自分らしく生きることを支援できる地域を目指す「権利擁護 虐待の防止」

ご本人の思いや考えを最大限に引き出し、意思を決定するための支援を行っています。また、本人の権利を守るための支援や「成年後見制度」を知っていただく活動や研修会を行っています。

障害のある方を地域全体で支えるサービス提供体制を構築する「地域生活支援拠点」

障害のある方の「親亡き後」の備えや、入所施設・精神科病院から退所・退院した方の生活を地域全体で支える仕組みが「地域生活支援拠点」です。

区内の事業所や病院、自治会、民生委員なども含めて、障害のある方を地域全体で支え合うネットワークづくりに取り組んでいます。



基幹相談支援センターの事務所は三俣川駅の近く。面談室・ミーティングルームも完備して、相談員がお待ちしています。

障害がある人の暮らしや人生設計をお手伝いする「計画相談支援事業」

障害の方が使えるサービスには、介護保険と同じようにたくさんの種類があります。計画相談支援事業は、ご本人に合った福祉サービスを提案し、必要に応じて調整します。

具体的には、ご本人やご家族のお話を伺いながら「サービス等利用計画」を作成します。サービスの利用開始後には定期的な状況確認（モニタリング）により、ご本人の状態に応じた適切なサービス利用をサポートします。

基幹相談支援センターに併設する計画相談支援事業所として、地域の課題をいち早くキャッチして他の事業所に伝えていくのも、私たちの大きな役割です。

障害のある方の地域生活がより豊かになるように、地域とのネットワーク作りを行っています。



さまざまな資源をコーディネートして生活を支える計画相談。2人の相談員と一緒にプランを作成します。

生活支援事業は、ご本人の要望やご家族の用事・休息などに合わせた日中時間帯の預かり（一時ケア）と宿泊（ショートステイ）が中心です。外出や活動によって充実した過ごし方を提案する余暇支援も行っています。

日常生活のサポートや緊急時の受け止めを含め、地域での暮らしを応援します

一時ケアは、8:30から20:00までの時間帯での預かりです。3歳から大人まで、幅広い年齢層の方が利用されています。利用時には自立課題や買い物練習を取り入れて、ご本人の障害特性やご家族の要望に応じて過ごし方を組み立てることで一人一人に合わせた対応しています。また、電車を見に散歩に出かけたり、みんなでボードゲームをしたり……と、充実した時間を過ごせるよう一緒に考えています。

ショートステイの利用理由は、家庭以外での宿泊の経験、ご本人の希望、ご家族の休息などさまざまです。10歳ぐらいいからご利用が可能で、ご家族の病気やケガに伴う入院、

関係機関からの依頼など、緊急の宿泊依頼にも可能な限り応じています。宿泊時に安心して過ごしていただけるよう、DVDや音楽などを用意しています。

余暇活動では、クッキングや創作活動などの室内プログラム、レジャー施設（水族館、プール、動物園）などの屋外プログラムを企画・実施しています。学齢期、成人期とそれぞれ年齢に応じて楽しめるプログラムを計画しています。実施にあたっては地域のボランティアさんの協力もいただいています。継続して余暇活動に参加して下さる心強いボランティアさんもいて、参加者も会うのを楽しみにされているようです。普段ご利用がない方との出会いや再会も大切にしていきたいと思えます。



一時ケアのご利用で偶然再会したお二人。学生時代の同級生だったようです。話が盛り上がっていました！

秋のBBQ、晴天下で食欲も増進でした。また、みんなで一緒に集える日を楽しみにしています！



支援者の意気込みや思いを語るリレーエッセイ

Good Job!

仕事も趣味も「見守って」います

後見的支援室・絆の梅本です。入職して2年が経過としています。

私は「あんしんサポーター」という立場で、登録されている方やご家族からお話を伺っています。面談では時間をオーバーするほど次々と話題が出てくる方、逆に言葉にするのが苦手ながらも思いを伝えようとして下さる方がおられ、内容もさまざまで「人に歴史ありだなあ」と興味深く伺っています。

制度的には「将来の希望や漠然とした不安など」の相談ということで、今すぐ解決すべき課題がない時でも繋がりを保持して、日中活動の場やご自宅にも訪問しています。そうしていくと、各場面でそれぞれ見せる顔が意外に違って、ご本人が立体的に見えてくることがあります。

やりがいを感じるのは、面談相手が話をされる中で、それまで持っていた思いとは違う視点に気がついたときや、悩みごとで堂々巡りになっている状態から物事を整理して考えられる状態に変わっていった

ときです。次の一步へのきっかけになれたのではないかとうれしく感じます。

私が楽しみにしている趣味はガーデニングです。植物は環境を整えれば、季節ごとにキレイな葉や花を見せてくれます。これが癒しになっています。

今回、改めて鉢やプランターを数えてみたところ、大小合わせて100を超えていました。道理で水やりが大変なわけですね。室内には多肉植物の小鉢もあるのですが、その話はまた別の機会に……。

今回は、入職初年度に大変お世話になった連・日中活動の川浪さんにバトンを渡したいと思えます。



梅本 貴義 (うめもと・たかよし)

2019年に後見的支援室・絆に入職。

ファイナンシャル・プランニング技能士2級の資格を持っています。年金や相続、税金など幅広く勉強したことが、思いがけず面談の助けになっています。

グループホームは、障害のある方が少人数で共同生活する「家」です。現在は旭区と泉区に各1カ所、計2つのグループホームを設置しています。それぞれの特徴をご紹介します。

優雅な時間で活力をチャージする「ファイン西が岡」

ファイン西が岡では6名が生活しています。閑静な住宅街にある西が岡はゆっくりした時間を過ごすのに向いており、入居者の皆さんはスポーツ観戦、DVD鑑賞、パソコンやゲームなどそれぞれの趣味を自宅で楽しんでいます。ホームでは、掃除や洗濯、洗い物など自分で行えるものは自分で行うという「メリハリのある大人の優雅な時間」を大切にしています。

先日は岡津地域ケアプラザで開催された「ふれあいこどもまつり」に参加し、地元のお子さんたちといっしょに缶バッジ作りを楽しみました。今後は地域との交流も積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

おいしいごはんが元気のひみつ「ファイン鶴ヶ峰」

ファイン鶴ヶ峰では5名が生活しています。入居者さんはお話することが大好き。耳を澄ますとヘルパーさんたちと談笑する元気で明るい声が聞こえてきます。

鶴ヶ峰は食事に「こだわり」があります。毎週リクエストメニューの日を設けており、その日は入居者さんがリクエストしたものが食卓に並びます。生姜焼きやてんぷら、ハンバーグなどさまざま。「おいしいね」と言いながら笑顔で召し上がる皆さん。おいしいものは正義です。

散歩中の方が声を掛けてくださったり、地域の方が絵手紙を教えに来てくださったり……といった近隣の方々との温かい交流があり、皆さんとても楽しみにされています。



「ふれあいこどもまつり」では缶バッジのワークショップを開催しました。近隣にお住いの方たちがたくさん訪れ、コーナーは大盛況でした。

ファイン鶴ヶ峰で開催したピュッフェでの1コマ。皆さんがリクエストしたメニューが並ぶいつもの食卓がにぎやかになりました。



「見守り」のネットワークづくりをサポート

後見的支援事業

住み慣れた地域で安心して暮らしたい……障害のある人とその家族の思いを支援していくのが後見的支援の役割です。二俣川駅北口に「旭区後見的支援室・絆」を開設しています。

横浜市障害者後見的支援制度とは、平成22年からスタートした横浜市独自の制度です。障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、定期的な訪問や日常の見守りなどを実施する「見守り」の仕組みです。

この制度は、具体的に目に見える形で支援をするわけではありません。ご本人やご家族から、将来への願いや希望、漠然とした不安などを定期的な面談で教えていただきながら、長いお付き合いをさせていただきます。いつからでも登録でき、ご本人や家族間の環境・日中先(働き場所)・住む場所など、さまざまな変化や状況の動きにも寄り添い、ご本人のことを知っている存在であり続けたいと思ひます。

また、緊急を要する時や将来の親亡き後など困ったことがあった時に、本人が知っている人、そして本人を知っている人が近くにいることは安心につながると思ひます。ご本

人の支援チームの一員として「あんしんキーパー」や他事業所と連携し、地域の中での見守りを一緒に考え、安心した暮らしが送れる「見守り」のネットワークづくりをサポートしていきます。

旭区在住の18歳以上の障害のある人とその家族にご利用いただけます。費用は無料です。詳細についてはお気軽に問い合わせください。また、絆でも独自の広報誌を発行していますので、ぜひご覧ください。



面談を通じてご本人のことを一緒に考えていきます。

二俣川駅北口から徒歩5分。ビルの5階に開設しています。



Keyword あんしんキーパー

障害のある方の日常をゆるやかに見守る地域のボランティア

二んにちは。 地域交流 です!

地域交流部門は、サポートセンター連の活動を皆さんに知っていただくための窓口です。
毎年9月に開催している「連ふれあいまつり」が一番大きなイベントですが、この他に地域の親子さんや、成人の方を対象としたミニイベントを連の利用者さんと一緒に行っています。皆さん、ぜひご参加ください!

昨年度はコロナ禍のため館内イベントはあまり開催できませんでしたが、野外スペースを使っておはなし会やランチ会を行いました。また第5回目の開催となった「連GALLERY~作品展~」は、南万騎が原駅前の「みなまきラボ」と連の2会場で行うといった新しい試みを実現できました。



9月の「青空おはなし会」は、雨天に備えて駐車スペースで開催しました。

11月に開催した「ランチ会」は、パン工房前でオープンに!

R3年度は親子さんが対象のミニイベントを中心に企画予定!
地域の親子さんと、連の利用者さんと一緒にイベントを楽しみましょう!
会場は、連や「みなまきラボ」を予定しています!
連の掲示板や、おもちゃ文庫のチラシをチェックしてくださいね。

第1弾イベント「キッズサーキット」を開催しました!



7月9日(金)、今年度初のミニイベント「キッズサーキット」を駅前のみなまきラボで開催しました。たくさんの親子さんが遊びにきてくれました。連のおもちゃ文庫やパン屋さんのPRもでき、楽しい時間となりました。

利用者さんからの近況報告

Green Garden



みなさんいかがお過ごしでしょうか? 今回は、ヒメリンゴの成長記録です。今年は芽生えがいつもより早くから始まりました。去年と比べると枝葉が増えたような気がします。より成樹に近づき、これから楽しみです。(工房2・板宮伸一郎)

INFORMATION

- 日中活動夏休み
8月11~15日(土日を含む)の5日間、連の日中活動はお休みとなります。
- 「連・ふれあいまつり」代替イベント
10月8~10日(金~日)

ボランティアさん大募集!

サポートセンター連では、日中活動を中心にボランティアさんを募集しています。
利用者さんといっしょに製品作りやお散歩、おしゃべりを楽しみませんか?
お気軽にお問い合わせください。

TEL 045-360-9778 (担当:成田)

編集後記

- 初めまして。今年度から広報委員会に入った山野上です。リアルタイムは今まで読む側で発行を楽しみにしていましたが、今年度からは作る側になり、広報誌を作るのが難しいと初めて知りました!! 夏の暑さとクーラーの寒さに負けそうになっていますが、皆さんが楽しめるような記事を次号でも載せられるように頑張りたいと思います!(山野上)
- じわじわと暑さが増している今日この頃、今年の夏も暑くなりそうですね。そして、ついにオリンピック! 選手の活躍にワクワクします! 今号を作成して、改めて「サポートセンター連」の各事業の活動を知る機会になりました。今年度はみなさんがワクワクするような、サポートセンター連の表情をたくさんお伝えできるように頑張ります☆(水野)
- できれば関わらないまま定年を迎えたかった広報委員会。15年ぶりくらいに編集やデザインをして、Illustratorの使い方を忘れていたことに驚きました。今までとはちょっと違った雰囲気のものを作れたかな~と思うけど、制作進行的にはかなり無茶だったような気もするので、次回からはまた変わるかもしれません。それはそれでまた宜しきコトかな……と、あれもよしこれもよし、人生全て試行錯誤。(野村)
- 夏目前のこの季節、既に真っ黒に日焼けした肌でショートステイを利用される方がいます。毎日、汗を流し外での仕事に励んでいる証ですね。そんなたくましい姿に、自分も頑張らなくては!……と励みになっているこの頃です。さて、今年度の広報委員会も、充実した内容でさまざまな情報をお伝えしていきます! ご感想・ご意見もぜひお聞かせくださいね! よろしくお願ひします。(田村)

サポートセンター連 機関誌 「THE リアルタイム」第42号 (令和3年7月26日発行)
発行者:サポートセンター連・広報担当 住所:横浜市旭区柏町59-2 TEL 045-360-9778 FAX 045-360-7004
社会福祉法人 訪問の家 ホームページ <http://www.houmon-no-ie.or.jp>
旭区地域自立支援協議会 ホームページ <http://asahiku-net.webnode.jp>

当法人への寄附金は、ご寄附をいただいた方の「所得税(国税)」の所得控除、および「横浜市の個人市民税」「神奈川県個人の個人市民税」の寄附金控除の対象になります。ただし二千元を超えた額が対象です(寄附額二千元以上)。ご不明な点は、訪問の家本部事務局(〇四五―八九四―四八四)にお問い合わせください。